

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
情報職業論 Theory of Information Technology jobs		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	()	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
コンピュータサイエンスユニットの科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
コンピュータサイエンスユニットの科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
長江 庸泰	本館2F (研究室1)	月～木曜 9:00～16:00 (授業・会議時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
情報と職業の関わりや、情報に関する職業人としての在り方など、情報化社会に至る歴史を展望し、情報社会・情報産業の実態について学び、次に、企業・組織における情報の取り扱いについて、企業組織、人事・教育、知的財産といった視点から概観し、さらに社会人として知っておきたい情報・データの基本的な取り扱い方法やプレゼンテーションの方法について学習する。				
授業の目標				
①情報技術と職業の関わりや、情報技術に関する職業人としての在り方と諸活動を認識し、説明できるようにする。 ②企業・組織における情報の取り扱いについて、企業組織、人事・教育、知的財産といった視点から概観・体得することができるようにする。 ③卒業後、実際のビジネス・シーンで役立つように、その理論を十分に理解して、基礎知力および応用力を体得できるようにする。				
授業の方法				
本授業は、講義、マルチメディア授業、デジタルテキスト、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワーク等を活用しながら、リスクマネジメントに精通した人材育成を目指すものである。				
学習の成果（学習成果）				
①情報技術職業人の諸定義、②情報技術の利活用と組織人としての認識と理解、③情報技術職業人の評価と是正・改善等の知識・概念に習熟し、1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜きながら、3)自分で調べ・学ぶ、課題解決型のアクティブラーニングをビジネスシーンにおいて活用できる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	授業ガイダンスーこの授業の進め方と大学での学び方/レポート課題説明と出題 *シラバスを読んでおき、この授業に関する質問事項を考えておくこと。			
第2回目	情報化社会の進展：情報化社会に至る歴史的展望<情報化にともなうビジネス環境の変化、情報化社会の課題			
第3回目	日本経済の変遷と現状：我が国の経済状況の変遷、産業構造の変容・実態・現状			
第4回目	情報に係わりの強い産業、職業：情報通信産業の現状、情報通信産業の人材の動向/(グループワークによるプレゼンとディスカッション①)			
第5回目	情報を活用している産業、職業：小売業、流通業、製造業などの身近な職業において、どのように情報を活用しているか考える。			
第6回目	企業の仕組みと情報活用（1）：企業活動の仕組みについて学ぶ。情報化にともなって組織がどのように変容するかについて考える。			

第7回目	企業の仕組みと情報活用（2）：企業における人事考課、業績評価、企業内教育、資格 等について学ぶ。	
第8回目	社会が求める人材：若年層の就業状況、企業・組織が求める人材像を概観する。キャリア教育の必要性について学ぶ。/(グループワークによるプレゼンとディスカッション②)	
第9回目	社会・企業活動における情報の取り扱い方法（1）：ビジネスや学校において情報を伝え、理解させる方法論を学ぶ。	
第10回目	社会・企業活動における情報の取り扱い方法（2-1）：ビジネスや学校における測定と評価に関する方法論を学ぶ。そのなかで量的データの取り扱い方法について学ぶ。	
第11回目	社会・企業活動における情報の取り扱い方法（2-2）：ビジネスや学校における測定と評価に関する方法論を学ぶ。そのなかで質的データの取り扱い方法について学ぶ。	
第12回目	社会・企業活動における情報の取り扱い方法（3）：ビジネスや学校における情報の構造的な把握法、表現方法について学ぶ。	
第13回目	社会・企業活動における情報の取り扱い方法（4）：ビジネスや学校におけるデータ・サイエンス①について学ぶ。	
第14回目	社会・企業活動における情報の取り扱い方法（5）：ビジネスや学校におけるデータ・サイエンス②について学ぶ。/(グループワークによるプレゼンとディスカッション③)	
第15回目	社会・企業活動における情報の取り扱い方法（6）：ビジネスや学校におけるデータ・サイエンス③について学ぶ。	
事前・事後学習	事前学習(シラバスの学習ポイントを自分で調べ、質問事項等を準備しておくこと)・事後学習(ノートを見直しながら、1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜き、3)自分で調べ・学ぶ姿勢を身につけること)	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	10%	以下の3点から評価する：①ノートに関し、創意工夫してまとめられている、②自分の意見を論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。S評価の基準：上記参加態度を全て満たすもの。
レポート	30%	Sのレポートの評価：①創意工夫してまとめられている、②自分の意見を論理的に展開している、③課題の本質と学習成果が十分にまとめられている。レポート最新課題は、月1回計3回提出予定(締切は各月末)。
調査報告書		
小テスト	20%	グループワークによるプレゼンテーション力のS評価：①内容が創意工夫した発表となっている、②グループの意見が論理的に述べられている、③グループで協働し、積極的に質疑応答に臨んでいる。
試験	20%	期末記述試験
発表内容（態度含む）	20%	Sのレポート発表評価：①創意工夫した発表となっている、②自分の意見をまとめながら論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。
その他		上記評価基準に基づき成績評価：S(傑出した内容)=90-100、A(平均を上回る内容)=80-89、B(平均的内容)=70-79、C(平均を下回る内容)=60-69、D(左記以外の内容)=0-59
教科書と参考図書		
		長江庸泰作成の“デジタルテキスト[情報職業論2019年度版]”を活用する。
履修上の留意点・ルール		
		●実務経験(職種：会社役員、職歴：通算39年) 本学の教育理念(想う人、考える人、行う人を創る)を体現する、「1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜きながら、3)自分で調べ・学ぶ、自主創造の精神に基づく課題解決型のアクティブラーニング」を常に心掛けましょう。